

# 図書館魅力化事業～ツマル!としょかんプロジェクト～、 来(らい)ぶらりマルシェ

島根県 益田市立図書館

## 基本データ

所在地 益田市常盤町 8 番 6 号  
 職員数 17 人  
 うち司書数 5 人  
 蔵書数 183,086 冊  
 利用登録者数 19,510 人  
 年間貸出冊数 156,437 冊  
 (児童用図書貸出数 72,089 冊)

## テーマ・活動のねらい等

【テーマ】様々な利用者へのサービスの充実

【活動のねらい】

- デジタル化が進む中、図書館の利用者は減少傾向にある。一方、人生 100 年時代、AI 時代の到来を見据え、あらゆる世代が生涯学び続けることのできる環境づくりが求められる中、知の拠点としての図書館の重要性が再認識されている。
- 本事業は、図書館は本を借りるところという固定概念をくずし、図書館の新たな利用者を確保するため、「図書館に足を運ぶためのきっかけづくり」として実施している。
- 図書館魅力化事業～ツマル!としょかんプロジェクト～では、参加者が、図書館の新たな価値付けを持続的に行うことができる主体者へと変革することをねらう。

## 取組・活動の概要

### (1) 図書館魅力化事業(市委託事業)

- ツマル!としょかんプロジェクトとは、図書館を魅力的にするために平成 30 年度から開催した市民参加型の活動。
- 「図書館って、行って、本を借りて、帰る…なんだか、それだけじゃあつまんない。では、自分たちにとって“ツマル図書館”ってどんな図書館?」という問いのもと、自分たちの足で図書館を巡り、気になるところを写真に撮り、ほしい図書館像を話し合うワークショップを開催した。
- 初回の図書館バックヤードツアーの後、子育て世代対象、仕事終わりの社会人対象、小・中学生対象、自由参加のワークショップを全 4 回開催し、ワークショップで得られた 168 の気づきから、図書館が“ツマル”ための 20 のアイデアが生まれた。
- 令和元年度は、前年度事業の実施により報告のあった「益田市立図書館が魅力的になる 20 のアイデア」を実現することを目指して活動。
- また、その活動の参加者が、図書館の新たな価値付けを持続的に行うことができる主体者へと変革することをねらう。



図書館バックヤードツアー



子育て世代対象のワークショップ



図書館がツマルための 20 のアイデア

## (2) 来(らい)ぶらりマルシェ

【対象】図書館利用者ほか益田市民

【頻度】おおむね月1回程度

【概要】

- 手作りの食べ物・飲み物・小物等をはじめとした、スキルを有する市民及び市民団体が、図書館前庭(雨天時は図書館内)で手作りの食べ物・飲み物・小物等の出店販売を行う。
- 出店販売を行う登録団体数は、令和元年10月現在で34団体。平成30年度は、7回開催し、利用者数は6,344人。
- 本事業の出展者・団体は、市の別の事業の実施で協力いただいた方であり、その事業が終了したのち、会場を図書館に移し同様の取り組みを行っていただいている。



来(らい)ぶらりマルシェ



図書館内での小物の出店販売

## 取組・活動の工夫や特徴

### (1) 図書館魅力化事業

- 市担当課と図書館が市民ニーズを把握しながら事業展開しているが、市担当課・図書館・市民をつなぐコーディネーター役をワークショップ受託者が担うことで、市民ニーズの把握と事業への反映がスムーズになった。

### (2) 来(らい)ぶらりマルシェ

- 出展販売を行う際には、その出展内容と関連する書籍を展示するなど、自然と図書と触れる機会づくりを行っている。
- 従来は、「本を借りるために図書館に行く」だった。これからは、マルシェに立ち寄ることで、自然と本に触れ、本に興味を持ってもらい、このこがきっかけとなり図書館に行くようになるよう、工夫している。

## 取組・活動の成果や今後の展望

### (1) 図書館魅力化事業

- これまでの取り組みにより、参加者のすそ野の広がりを感じる。
- 今後は、参加者が図書館の新たな価値付けを持続的に行うことができる主体者へと変革することを意識した事業展開を行いたい。

### (2) 来(らい)ぶらりマルシェ

- 図書館利用者に目に見えた変化は見られないものの、出展者・団体の数は増加傾向にある。
- こうしたひと・団体が、その他の図書館事業とも連携した取組みを行うことで、事業の魅力化が図られ、事業への参加者数が増加しており、新たな図書館利用者につながることを期待できる。